

報道発表資料の配付日時 5月25日(木) 10時00分

発表項目 (行事名)	「北海道カーボンファーム推進協議体」の設立について		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>■ 「北海道カーボンファーム推進協議体」の設立（5月25日）</p> <p>北海道カーボンファーム推進協議体は、本道農業が「ゼロカーボン北海道」の実現に貢献しながら持続的に発展していくため、農地への炭素貯留や温室効果ガスの排出削減、カーボン・クレジットの創出を共通の目的とする産学官金など幅広い分野の関係者が集う情報交換と協働の場として、道のホームページ上に設置するバーチャルな協議体であり、本日（5月25日）設立したので、お知らせします。</p> <p>(ホームページアドレス) https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ns/shs/clean/148792.html</p> <p>【取組内容】 ~協働の基盤（プラットフォーム）づくり~</p> <p>①構成員の協働による情報交換 ・参加者名簿と電子メールを活用した情報交換</p> <p>②生産現場での脱炭素化に向けた取組を推進 ・共同研究や技術実証など、参画者の協働を促進</p> <p>③HPを活用し、新たな技術情報や現地での取組などを情報発信 ・先進事例の横展開や集積した情報の提供</p> <p>＜カーボンファームとは＞ 農地土壌や家畜の飼養管理などの改善によって、温室効果ガスの削減・吸収を目指す農業のこと。</p>		
参考	別添の「北海道カーボンファーム推進協議体」の設立について		

報道（取材） に当たって のお願い			
他のクラブ との関係	同時配付	（場所）	
	同時レク		

担当 (連絡先)	農政部農政課政策調整係（担当者：尾野、多田） TEL ダイヤル 011-204-5376 内線 27-109		
-------------	--	--	--

「北海道カーボンファーム推進協議体」の設立について

〔令和5年（2023年）5月〕
北海道農政部農政課

1 趣 旨

道では、全国に先駆けて平成3年度から健全な土づくりを基本に、化学肥料や化学農薬の使用を必要最小限にとどめるクリーン農業をはじめ、原則これらを使用しない有機農業などの「環境保全型農業」を推進してきたところである。

こうした中、世界的にカーボンニュートラルの取組が求められ、本道農業が「ゼロカーボン北海道」の実現に貢献しながら持続的に発展していくためには、農業分野から排出される二酸化炭素（CO₂）やメタン（CH₄）、一酸化二窒素（N₂O）の温室効果ガスの排出削減はもとより、農地土壌への炭素貯留効果などの吸収源対策についても推進していく必要がある。

このため、本道農業の脱炭素化に向けて、幅広い分野の企業、農業者や農業団体、経済団体、金融機関、大学、研究機関、行政機関など多くの方々の参画を得て、農地への炭素貯留や温室効果ガスの排出削減、カーボン・クレジットの創出を共通の目的とした「北海道カーボンファーム推進協議体」を設立し、協働の推進母体として活動を進める。

＜カーボンファームとは＞

農地土壌や家畜の飼養管理などの改善によって、温室効果ガスの削減・吸収を目指す農業のこと。

2 構 成 員

「北海道カーボンファーム推進協議体」は、設立趣旨に賛同する関連企業、農業者や農業団体、経済団体、金融機関、大学、研究機関、行政機関などにより構成する。

3 役 割

「北海道カーボンファーム推進協議体」は、幅広い構成員の持つ情報を広く発信し、共有することにより構成員の協働を促進するとともに、水田、畑作・野菜、畜産などの分野別の課題検討等を行うほか、生産現場での取組等を支援する。

※ 共同研究や技術実証など、参画者の協働を促進

※ 協議体として会長や独自の予算、総会は設定せず、ホームページと電子メールによる情報のやりとりを基本に活動

4 取組内容

～協働の基盤（プラットフォーム）づくり～

- 構成員の協働による情報交換
 - ・ 参加者名簿と電子メールを活用した情報交換
- 生産現場での脱炭素化に向けた取組を推進
 - ・ 共同研究や技術実証など、参画者の協働を促進
- ホームページを活用し、新たな技術情報や現地での取組などを情報発信
 - ・ 先進事例の横展開や集積した情報の提供

5 設立月日

令和5年（2023年）5月25日（木）

「北海道カーボンファーム推進協議体」の設立について

令和5年5月
道農政部

【設立趣旨】

- 道では、**全国に先駆けて平成3年度から**健全な土づくりを基本に、化学肥料や化学農薬の使用を必要最小限にとどめる「**クリーン農業**」や有機農業などの「**環境保全型農業**」を推進。
- 世界的にカーボンニュートラルの取組が求められ、**本道農業が「ゼロカーボン北海道」の実現に貢献しながら持続的に発展していくためには**、これまで以上に**環境と調和した持続可能な農業を推進していくことが必要**。
- 本道農業の脱炭素化に向けて、**生産者をはじめ産学官金など幅広い分野からの参画を得て、農地への炭素貯留や温室効果ガスの排出削減、カーボン・クレジットの創出を共通の目的とした「協議体」を設立し、協働の推進母体として活動を推進**。

「北海道カーボンファーム推進協議体」

農地への炭素貯留やGHGの排出削減、カーボン・クレジットの創出等に関心のある企業、団体、個人等

※趣旨に賛同いただける方ならどなたでも参画が可能。

参
画

脱炭素へのノウハウや技術、投資などを考えている企業等

- ・企業
- ・経済団体
- ・金融機関
- ・大学
- ・研究機関 等

【取組内容】

～協働の基盤(プラットフォーム)づくり～

- 構成員の協働による情報交換**
 - ・参加者名簿と電子メールを活用した情報交換
- 生産現場での脱炭素化に向けた取組を推進**
 - ・共同研究や技術実証など、参画者の協働を促進
- HPを活用し、新たな技術情報や現地での取組などを情報発信**
 - ・先進事例の横展開や集積した情報の提供

北海道農政部
(事務局)

連携

道総研
農業試験場

脱炭素に向かう・向かいたい地域・農業者等

- ・市町村
- ・農協
- ・農業者
- ・普及センター
- ・関係機関

※ 共同研究や技術支援など、参画者の協働を促進

※ 協議体として、会長や独自の予算、総会は設定せず、ホームページと電子メールによる情報のやりとりを基本に活動

<カーボンファームとは>

農地土壌や家畜の飼養管理などの改善によって、温室効果ガスの排出削減・吸収を目指す農業のこと。